

# 第13回 市民動物園会議

## 会 議 録

日 時 : 平成23年8月4日(木) 18時開会  
場 所 : 円山動物園内 動物園プラザ

## 1. 開 会

○原田委員長 それでは、おそろいのごさいますので、きょうで最終回となりますが、第13回市民動物園会議を開きたいと思ひます。

それでは、まず最初に、二木理事からごあいさつをお願いします。

○事務局（二木環境局理事） 皆さん、おぼんでごさいます。

本日は、お忙しい中、また、夕刻にかかわりませずお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

今回の第13回が最終回にはなりますが、平成18年にリスタート委員会での基本構想、そして、その後、基本計画を策定し、今までに至っている状況でござひますが、この5年間の中で動物園はある程度前に動き出したのではないかとひうに実感しておひります。

これまでにいただいたいろいろな提言をしっかりと着実に実行していきたくひ思ひていますし、これからの基本計画のありようについても、しっかりとご意見を聞きながら組み立てていきたくひ思ひておひります。

最後の機会になりますけれども、これまでの反省等々、いろいろな観点からご指摘をいただき、これからのつなげていきたくひ感じておひりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○原田委員長 ありがとうございます。

続けて、資料の確認等をお願いします。

○事務局（酒井円山動物園長） お配りいたしました資料でござひますが、1枚目は、第13回市民動物園会議の次第でござひます。その後ろにあるA3判縦長の資料、行政監査指摘事項と基本構想ならびに基本計画書との対応と実績評価というカラーのものが資料1でござひます。その次に、資料2-1は、基本計画推進の課題と今後の方向性というA4判の裏表3枚物でござひます。続きまして、資料2-2が、札幌市円山動物園基本計画の主な見直し内容について、A3判横長のカラーの1枚物でござひます。続きまして、資料2-3が、具体的な内容についての現行案と改正案の比較になっておひりますが、これは全部で49ページあります。一番最後の資料3としまして、前回の会議以降、主な新着動物出産の状況、そして、主な転出動物の状況という1枚物でござひます。きょう用意した資料は以上でござひます。

## 2. 議 事

○原田委員長 それではまず、これまで5年間、ことしで6年度目に入っているところですが、行政監査、基本構想、基本計画書、そういう指針に基づいて動物園の具体的な行動計画が実施されてきたところでごさいます。一応、今までの経緯について、服部副委員長と金澤元園長と私の3人で、今までの行政監査の指摘事項と、それに基づいた構想の指針、それから、具体的に基本計画として実行計画としてもらったことが実施に移されてきたか、その実績を評価しまして、ここに実績評価（案）というA3の黄色とグリーンの色をつひ

たリストを作成しまして、いろいろ意見交換して、最終的にバージョン5としてこのような案を作成しました。

今回、これは项目的には全部で85項目とちょっと量が多いので、かいつまんでご報告をさせていただいて、それぞれの項目についてご意見等ありましたら、そこで是正をしていく形で、できるだけ短い時間で実績評価の(案)をとるところまでいきたいと思っております。そして、これからの構想、次期計画案の議論に時間を多くとっていきたいと思っておりますので、ご協力をいただきたいと思います。

それでは、ページごとに説明した方がいいかと思っておりますけれども、まず1枚目から行きたいと思っております。

左側に書いてある項目が、行政監査指摘事項ということで、2006年11月提出の報告書に基づいた項目を抜粋して列記しているものでございます。それに対応して項目番号をつけて、右側の方に構想報告書、これは2007年3月に動物園に報告書として提出したものでございますが、その中に書かれているものと行政監査指摘事項との対応関係について記しているものでございます。それから、一番右側が基本計画書でございますが、構想計画に基づいてこのように計画を実施するという内容について、2008年8月に提出された内容に基づきまして、この時点でもう既にやっていたものもございまして、やるものについても記載をしております。そういうことで、一番右の列に実施と書いておりますが、そこに1と書いてあるものがほぼ計画どおり達成しているもので、枠を黄色で塗りつぶして1という数値を入れております。そして、緑色の枠がございまして、右の実施の欄のところには1という数値が入っておりません。これについては、まだ実績として達成できていないという意味で、色と数値なしということで表記しております。

それでは、まず最初に、項目番号1の将来構想の策定こそ急務については、その理念として地球環境保全という使命を持つべしということを書いておりますが、ほぼ達成したのではないかということで1としております。

それから、2番目の項目ですが、飼育員の意識の格差等があるということです。これについては、今までの5年間で飼育員の方々のご努力が実ったと判断しておりますので、1としております。

それから、来園者へのアメニティ機能の低下ということで、大きなものとしては遊園地の問題が指摘をされておりますが、これはちょっとそぐわないのではないかという意見が多く出ておまして、既に撤去されております。そして、そこに新たな施設を設けていくという計画に沿って進行してということで、1でございます。

それから、来園者へのアメニティ機能の低下、それから将来構想の策定が急務であるということで、市民あるいは入園者に対する顧客満足度が得られているのかを再検討すべしということでここに項目を立てております。これは、入園者数等で判定できる項目でもありますので、100万人という数値目標を立てましたが、その数値目標にまだちょっと足りないところでございますので、やはり、この辺は目標数値を達成した時点で黄色にすべ

しというように考えまして、いいところまで来ていると考えておりますが、グリーンということで、まだ達成できずということでございます。

それから、5番目は、世界における動物園の役割の潮流です。キーワードは生物多様性とはということでございますが、こういう任務を負っているのではないか、生物多様性の保全ということ、そういう目標をどの程度、動物園のスタンスとして態度を表明し、それを実施できているのかということでございますが、右に書いてありますように、いろいろと努力した行動の後が見られる、現在も努力中ということでございますけれども、その成果というものを加味して、1としております。

それから、札幌市における動物園の役割、それから、市全体の政策課題としての戦略的位置づけをはっきりすべしということで、全庁的論理、市民論理を踏まえるべきだという監査の指摘事項に対応して、その後、書いておりますけれども、6項目目、動物たちの生息域のいろいろな環境、自然、条件、そういうものの解説とか見地とか、そういうものをもう少しやるべきだということで構想を立てましたが、ここでもイベント等がいろいろ実施されているということで、1でございます。

それから、共生型都市、北海道の生物多様性の確保の基地としての位置づけでございます。北海道固有の野生動物ゾーンとして、北海道ゾーンというものを一番奥の方につくるというような構想を立てておりまして、繁殖用のケージとか訓練用のケージもきちんと建設され、放鳥計画、保護個体の治療等も行ってきたということで、1でございます。

もう一つの役割として、いろいろなメッセージを発信するメディアとして、今までの動物を飼って、それを見せるだけではなく、子どもと親と自然と動物とのかかわりを、非常に広い視野でいろいろなメッセージを動物園というメディアを通して発信していこうという構想でございましたが、これも子育て支援イベントとか障がい者福祉のためのいろいろな行動であるとか、高齢者支援であるとか、敬老祝いとか、結構いろいろもろもろの展示、あるいはサービス等の提供が行われてきた、そういう意味で非常に動物園の役割の拡張ということに寄与してきたのではないかとということで、1でございます。

それから、9番目は、基本理念というところです。人と動物と環境のきずなをつくる動物園というイメージをはっきりと行動で見せようということでございましたが、これは、努力の結果が入園者増となってあらわれておりますが、それをきちんとした記録に残しておく努力を今後進めていくべきではないかという意見も出ました。数値目標の達成だけではなしに、こういうことを行ってきたという、やはり、バインダーにとじても結構だと思いますけれども、きちんとした歴史を、みんなが後で読んで、なるほどという記録づくりが必要なのではないかという意見が添えられてございますが、これも一応達成しているのではないかとということで、1でございます。

次に、それを実行に移す三つのコンセプトでございますが、三つの行動が記載されております。まず一つは、10番目の私の動物園という視点からの行動です。アニマルファミリー等をベースにして、市民が動物園に参加することによって新たな動物園をつくってい

くと。一方通行ではなしに、与える、アニマルを見せるということではなしに、アニマルのファミリーが集まる環境づくりができないかということです。これは、部分的にはできていないものもございしますが、努力の結果を評価して、1ということでございます。

それから、11番目は、理念やコンセプトが不明確の中の一つであります。生物多様性の確保に向けた行動ということです。これは、具体的に東側の細長いゾーンのビオトープという形で実現しています。一般公開という意味では、まだまだこれからという領域ではございますが、これは非常に大きな可能性を秘めたゾーンづくりではなかったかと感じております。円山レッドデータの編纂作業や、具体的にオオワシ、フクロウ等に関して、ロシアとの接触も含めて、かなり行動されていたのではないかと思います。

次のページでございますが、12番目は、円山動物園、円山公園、原始林、円山そのもの、北海道神宮、野球場、そういうエリア全体としての相乗効果としての展開というものを何とか実現できないかということです。現在、改めて木道をつないで、駅からずっと道に沿って円山遊歩道をつないでいく、それから、公園からのアプローチ等も含めて、環境局だけではなく、交通局なども含めた形でアクセスの一体化を展開していこうという動きが出ているようでございますので、そういう意味で、これは評価していいのではないかとということで、1としてございます。

次に、市民の満足度、魅力度が得られていないのではないかとという監査指摘でございます。

まず、事業展開の方向性として、市民が感じる魅力度と市民の満足度の双方を高めるということです。これは、一般的な企業であっても、顧客満足度が得られないサービス提供を幾らしても何にもならないということもあるわけですが、13番の動物と親しむ体験を多様なイベントとして展開するということです。これまで、このプロジェクトが起きる前は25件ぐらいのイベントではなかったかと思いますが、どんどんふえて、100件を超えるようなイベントに展開していきまして、それによって動物園が変わったという印象を強く植えつけてきたのではないかと思います。これも一生懸命スタッフの方々の努力の成果であろうと思いますが、これも1でございます。

14番は、ほかでは味わえない円山独特の魅力の展開ということで、展示評価方法として、円山評価法とか、私はこれを詳しくは知りませんが、そういうものも実施しているということでもございますし、オリジナルグッズの開発にも努力をされております。グッズ開発では、木のZOOとか、GEL-COOま、弁当箱ですか、そういうようなことも展開していきまして、私は、余り十分ではないと思っておりますが、一応、努力を見たいということで1でございます。

15番は、入園者が円山で初めての体験を得る、そういう新鮮な体験の結果ということでございますが、全体を見て、よい方向に向かっているのではないかとということで、1ということでございます。

16番は、対象を子どもからシニア層、LOHAS層、親子の体験、カップル層などへ

拡張する。これは、かなりここに掲げてあるような項目に沿って、イベント等で夜の動物園、親子体験、あるいはカップル向けのイベントなどいろいろな努力をされているということで、1です。

17番は、動物好きばかりでなく、大人のいやしの場としてのサービス展開を行うということで、大人向けイベントもかなりいろいろとやられていますので、1でございます。

次に、ゾーン・展示の方向性として、生物多様性環境の保全と環境教育という視点でいろいろとできているかということでございますが、まずは、自然体験ゾーン、あるいは自然生息環境をつくるということで、オニヤンマ、ニホンザリガニなど、北海道にしかいないものを大切にしていこうということです。これも、展示関係でいろいろやられてきましたし、ビオトープも大いに期待がかかっているゾーンであるということで、1です。

それから、ビオトープの形成と自然体験ゾーンによる環境教育についても、同じような評価で1でございます。

それから、構想計画の中では、円山自然林と同一樹種の動物園内での森林復元と木道構築による保全ということを考えておりましたけれども、これも時間が非常にかかるということもあります。ただ、植物関係の名札づけとか、努力の跡は見られますが、まだこれからという計画として位置づけると1とは言えないということで、グリーンカラーになっています。

それから、動物園のデジタルサービスを強化するということです。これは、動物園内の展示のあり方の項目でございますが、これについてはデジタルサービスを、デジタルZOOみたいな形のもの余り世の中には現存していないというふうに思いますし、それをうたい文句にしていくというところは大きな特徴になると構想では考えましたけれども、いろいろとコスト面の問題もあります。右側に、経産省プロジェクトから約1,000万円の研究費の募集がありまして、それに動物園をフィールドとした研究ということで、人と環境と生物の間をデジタルネットワークで結んで、家庭にしながら動物園を観察することができる、それでリピーターをふやしていくということで、顧客満足度を増加させるための新たなサービスシステムの提案です。実際に100名ぐらいの方にモニターになっていただいて、デジタルサービスの試行をやってみたのです。なかなか評判はよかったのですが、そのときに、動物園の中のデジタルネットワークの回線の状況が余りよくないという事実も判明しました。少なからずお金がかかるということで、即実施には移せませんでした。これは非常に残念なことですが、コスト上の問題であれば、景気が少しよくなってくれば実現できるのではないかと。全国的に余りおくれをとらないように実現をしていただきたい、そういう項目でもございます。そういうわけで、ここはグリーンになっております。

22番は、記憶に残る動物園での体験によるリピーターの増加です。そういう意味では、リピーターは非常に増加しているということで、1です。

23番は、環境や命の大切さを学べる。これは、いろいろな取り組みを具体的にどうや

るのかということは、ここから本格的に推進する課題であろうと考えまして、グリーンで  
ございます。

24番は、通り過ぎるだけでなく、触れ合いによる体感、感動ができるということで、  
触れ合い体験とか、ドキドキ体験とか、フリーフライトとか、ミルクタイムの訓練の状況  
を見せるとか、いろいろとやられているということで、1でございます。

25番は、お客様が近くで見られる環境づくりです。これは、オランウータン館も、よ  
く見ると、おりの外周が一部へこんでいて、人が中に入れるようなイメージの構造になっ  
ているということは努力のあらわれでもあります。それから、エゾヒグマ館等は、でき  
るだけクマが身近でえさを食べている様子が見られるようにしています。オオカミも上か  
ら見られるというようにという工夫がされています。一番最近では、は虫類・両生類館の  
見せ方の工夫というところで、身近に見られる環境づくりは1であろうと思います。

それから、動物が快適に過ごしやすい自然生息環境づくり。エンリッチメントというふ  
うに呼ばれていますけれども、これについては、今、言いましたようなものでも、中の環  
境を見てみますと、例えば、オランウータン館の弟路郎のところは、最初はただコンクリ  
ートだけだったということで、非常に殺風景な環境で、見ただけでかわいそうみたい  
なことを言う人たちも結構多かったのですが、きょうは、青々とした草木ということで、  
環境が随分変わったなというところをはっきりとあらわれていると思います。そういう意  
味で、エンリッチメントへの努力は、ある意味で達成できているのではないかというこ  
とで、1でございます。

それから、27番の園内長期整備計画についてですが、マスタープランの策定、段階的  
構想計画をつくるべしということでございました。これについては、そのとおり、基本計  
画に受け継がれて、マスタープランとして現在進行中でございますので、1です。

それから、動物舎の改善、自然生息環境によるエンリッチメントですが、これは、先ほ  
どのものとほとんどダブっておりますけれども、特に、気候帯別ゾーニングによるエネ  
ルギーの効率的活用と。効率的活用までは行ってないかもしれませんが、それを目指して、  
今もいろいろと設備計画が推進されていまして、そういう意味ではいいと思うのですが、  
それがなかなか支出計画の上に反映されていないのは、オイル代の高騰などで余り目立  
たない形になっていると考えられますので、努力を買って1ということでもあります。

それから、29番の段階的施設整備計画です。これは、マスタープラン、基本計画にの  
って現在進行中ということで、1です。

それから、30番の園内移動システムです。これは、お年寄りへの移動サポートとして、  
当初は、遊園地の移動汽車が使えないだろうかということも、ちょっと期待を含めて書い  
ているところでございますが、多分、安全性という面、あるいはコストの面で実現できな  
かったのかなと考えております。この動物園は全面が坂ですから、ちょっとした工夫が必  
要かなと考えられるところでございます。そういう意味で、グリーンです。

それから、周辺交通の渋滞緩和、臨時駐車場の検討等は、まだ手がつけられていないと

いうことで、グリーンです。

それから、円山公園との間の歩行者天国の実施についても、現在、計画はなしということで、グリーンであります。

それから、33番の円山動物園、動物公園構想です。これは、円山公園と動物園と合体させよう、そのようなところで自然と人間と生き物とのきずなをつないでいくのがいいのではないかという構想でございましたが、これはまだ折り合いがつかないところかと思っておりますので、グリーンです。

それから、34番の円山川沿いのビオトープです。これは、一応、ゾーンはできたということで、1です。

それから、北海道ゾーン（北方ゾーン）とも呼んでおりましたが、これも、オオカミ舎、シカ舎、エゾヒグマ館の新設とか、その辺のゾーンについては、ある程度進行しているということで、1です。

それから、36番の動物復元プロジェクトの実施でございます。これは、野生の復元というのは非常に難しい問題でもありますので、余り慌てる必要はないと思いますが、努力はしているということで、1であります。

それから、時間帯別イベントです。朝とか夜、特に夜や冬季のイベントを展開すべきであろうということでしたが、スノーフェスティバル、あるいは夜の動物園もやられているということで、1です。

次ページですが、38番の神宮祭りと動物園イベントとの連携というのは、やっているというふうには評価できないということで、グリーンです。

39番のオオワシ、フクロウの繁殖と鷹匠技術のイベント活用、ご存じのように、やっているということで、1です。

40番の個々の動物の履歴とか生息環境などのパンフレットをきちんとつくるということでしたが、これも、系統的にきちんとやられているのかというと、ちょっと実現できていないのではないかと評価で、グリーンです。

41番の各種ガイドパンフのリニューアル・デザインというのは、現在はちょっとわかりませんが、過去にアニマルカードというものが発行されたことがあったという意味で、これだけでやったというのもちょっと甘い感じがしますが、一応は1としてあります。

それから、円山動物園の生物多様性活動のガイドブックによる広報です。これは、レッドデータのホームページ編纂を買って、1です。

WEBコンテンツのリニューアルですが、飼育員のブログ等と連携してつくられているということで、これは評価できます。

44番の生態系情報を自動採取し可視化するということです。動物の健康状態というか、アクティビティー、活力みたいなものを何とか視覚化できたらもっといいねという読みであったのですが、実施という点ではなかなか難しいことでもあり、実現できなかったとい



う意味で、グリーンです。

アニマル画像のDVD販売は、動物園発行ではないかもしれませんが、現在やられているということで評価できます。

46番のレストラン、コンビニエンスストア、カフェの出店試行、トイレ、手洗い、授乳スペースのリニューアルです。これは、右に書かれているように、いずれもいろいろと実施されているということで、1です。

熱帯猛獣館の脱臭作戦については、改装計画を含めて実施できるだろうという読みで黄色にしています。

来園者に近くで見てもらえるよう観覧アメニティ機能の向上ということで、これは先ほどちょっと言いましたが、実施できています。

それから、円山でしか得られない体験イベントサービスの提供ということです。これは、園内動物病院プログラムを含めて実施できています。

それから、円山エリア各施設とのシャトルバスサービスと割引周遊チケットの販売等の連携です。SAPICA等が実施されているということですが、もう少し幅広く展開が可能であろうと。ただ、着手できたという意味で1です。

アニマルセラピーの試行です。これは、試行はできたけれども、その後はまだ展開されていないということもありますが、やったという意味で、1です。

アニマルファミリーの募集とプレミアムサービスですが、制度については実施できているけれども、なかなか具体的なサービス対応ができていないということです。しかし、今後、期待したいという意味合いを込めて黄色にしています。

WEBカメラの設置と映像提供、パスワード配布とICカードといったことを考えておりました。これについては、試行はしましたが、その後、実施はされていないということでグリーンにしています。

それから、円山公園からのアクセス・デザイン、誘導サイン、歩道拡幅等につきましては、現在、計画が進行中ということで、1にしています。

円山動物園の正門のリニューアルについては、もっと内部でやるのがいろいろあったということで、実施できていないのでグリーンです。

動線づくりと、園内ルート図、サイン計画につきましては、ちょっと歩いてみたのですが、この案内図、サインパネルのようなものがあるのですが、大きなジャンクション、分かれ道のところで、どうしても、こっちがタクシーとか、こっちが電車というふうに書かないと、通じていないのだなということがありありと見えます。やはり、大きな交差点についてはつけなければいけないのではないかと思いますし、少なくとも2カ所は必要だなと感じたところです。一応、全体のサイン計画についてはできております。ただ、少し不足している部分については付加していく必要があると感じたところですが、一応、評価して、1ということです。

それから、動物ピクトグラムの制作については、それぞれマップやサインに張りつけて

いるということで、できております。

それから、子供動物園の拡張とリニューアルについても実施しております。

水や熱の循環設備導入と環境教育も実施しております。

熱帯動物館のリニューアルについては、基本計画の中に組み込まれていて、順次、実施していく予定ということで計画には乗っています。そういう意味で黄色にしています。

数値目標、入園100万人を目指すというのは、先ほども言いましたけれども、グリーンです。

それから、入園者料等収入2倍を目指すということですが、2010年を見てみますと、入園料は確かに2倍程度に膨らんでいるということで、評価しています。

それから、ランニングコスト30%削減ということで、4億円から3億円まで落とそうということでございましたが、これは、いろいろな物価の高騰もあり、達成できなかったということです。

それから、64番のパスポートの値上げについては、検討しなければならないということで、まだできていないので、グリーンです。

それから、広告事業の導入、ネーミングライツ、冠イベント等は、いろいろやった実績はありますので、寄附金もある面で上昇したということで、1としています。

それから、アニマルファミリー制度等は、現状で500人の加入者ですので、できているとは言えないという評価です。

それから、企業協賛イベントなどの寄附金増収を確保ということです。これは、ある意味でできていますが、昨年の実績を見てみますと、そんなに上がっていないかなというところもあります。これからの努力も必要ですが、当初から比較すると上がっているということで、1であります。

それから、老朽化施設の廃止については、右のように廃止しました。

それから、冬季1日あるいは週の休業による委託業務の経費節減については、いろいろ努力していると思いますが、全体的な経費の大きな節減にまで至っていないということで、グリーンです。

それから、イベントの人員配置の見直し、ボランティアの活用は、ボランティアはいろいろやっているけれども、研修によってトレーニングの機会を設けて、もうちょっとちゃんと資格を与えるという育成計画が必要ではないか、質を上げるべしという一つの提言を含んでおりますが、現在進行中とみなして、1であります。

それから、競争入札の徹底、類似業務の統合です。これは、努力は認めるということで1です。

それから、飼料代の節約、光熱水費の節約ですが、節約努力はしているということで、1であります。

それから、水・熱エネルギー循環設備費等の整備による光熱費等の抑制は、実質的に抑制に至っていないということで、グリーンにしています。

74番の数値目標の公開、業績評価とリンクということですが、業績評価とリンクしているとは言い切れないと思いますけれども、これは、経営管理課を設置し、飼育展示課も設置したということの評価して、1であります。

職員参加型イベントの立ち上げや役職者の率先した指導力ですが、これは、いろいろと努力した形跡がありまして、具体的な計画も実現されているということで、1です。

それから、飼育主任制の導入です。それから、ガイドボランティアと一体となったチームづくりです。ここまで入れると、主任制が導入されていると思いますが、一体化が課題であるなというところでは。

77番の行政評価の実施と反映です。よそとの連携を拡大しているということで、全体的な意味で1ということでは。

最後のページですが、78番目の獣医師、動物生態学、展示専門家などの採用ができるよう、雇用形態を工夫するというふうにあります。特に、ここで1とした理由は、国際的な組織交流がスタートし始めました。国際的なネットワークの上に名前を連ねたということの評価したという意味です。

それから、有料入場者数と無料入場者数の実数カウントの実施です。これは、監査報告書の中で強く指摘されておりまして、ずさんであるという評価でありましたが、実施しているので、1としています。

それから、委託業務経費の節減、類似業務の統合、それから飼料代の節約等々、努力は認められるということで、1です。

それから、動物園会議の設置については、やっているので、1です。

職員参加型イベントの立ち上げや役職者の率先した指導力というのは、先ほど出てきて重複していると思いますが、1です。

それから、ボランティア等が一体となったチームづくりもそうですね。これは、今後の課題として残っております。

84番は、構想推進後に顧客満足度が向上したかどうかを測定する評価サーベイを経年的に実施し公開するというところで、市民会議の議事録公開がされているということで、1です。

85番は、経営改革後に運営主体について、指定管理者制度の活用の検討とか、こういうことについての側面で考えると、まだ今後の課題であり、検討はまだもう少し先かなということで、グリーンになっております。

以上、この1を全部合計して、一番右の列を足しますと、63になります。85分の63ということで、達成比率は74%です。これが、3人で検討した結果であり、これを一つの提案としようということで案としたものです。

一番下にあるのは、「将来に向けて（市民動物園会議提案）」となっておりますが、参考程度の意見の記述ということで、案の中には含めないと考えて結構かと思っております。

報告としては以上でございます。

これについて、総体的に、あるいは個別的に、ここはおかしいというご意見がございましたら、それを含めて、この案をとった形での実績評価としたいと思いますが、いかがでしょうか。

○田中委員 21番に動物園のデジタルサービスを強化するという項目があります。私は、こちらに参加していたのですが、アニマルファミリー的なものだったのです。ですから、全体的に最初にやるというものではなくて、まずはアニマルファミリー向けとして開発して行って、そこから立ち上げていくという形もあるかなと思いました。

○原田委員長 アニマルファミリー制度は、特記して、ほかのところでいろいろ出てきておりまして、そこでは評価しております。ただし、サービスの見返りとして、動物園側は、ライブ映像をちゃんとご家庭にお届けしますと、あなたのご家族の1頭は元気かどうかごらんにいれましょうというイメージがベースになっていたものですから、それをデジタルサービスの強化というふうに読んでおります。その部分だけはできていないということでグリーンにしてあります。

○田中委員 わかりました。

○原田委員長 ほかにどうぞ。

○山崎委員 25番あたりの動物舎の改善などにも関連するのですが、オランウータン館、エゾヒグマ館、オオカミ舎と、すごくきれいで、割と新しい施設ですが、例えば、エゾヒグマ館の一番奥のガラスみたいなのところののぞき窓が、すごいひっかき傷で中が全く見えなかったのです。また、オオカミ舎も、上から見るためにつくられているのですが、上からは見づらいです。は虫類・両生類館も、少人数で見るときは本当にすてきな施設ですが、前に、土曜日に来たときに、大混雑で、狭い通路のところは人で通れなくて、しかも直射日光ががんで暑く、こういうときもあるのだと感じたのです。これから熱帯動物館とか、お金をかけて新しい施設をつくれる際に、こういった一度新しくした施設についても皆さんがどういうふうに使われているのか、もう一回、もっと声を拾い上げて参考にしていってほしいと思っています。

○原田委員長 例えば、は虫類・両生類館をどうすればいいかという、今、見せている窓がくっつき過ぎているので、あれをもうちょっと間引いて長くしていく手もあると思うのですが、見えない人もいます。人はいっぱい入れるけれども、見られないのですね。やはり、それで面積が広がるので、建築費も2倍の人を入れようとするとならだけ高くなるということもあります。その辺の案分だろうと思うのですが、みんな何だ何だと殺到するときは非常に込み合いますが、そのうち、みんな学習して、今は込んでいるからやめておこうというふうになっていくのではないかと思うのです。人気のあらわれという意味では、人気があるから不便するところもありますけれども、どっちもどっちかなと思います。

ただし、またフィードバックをしていくということは必要かと思えます。

○事務局（酒井円山動物園長） それにつきましては、全くご指摘のとおりだと思ってお

ります。アジア館は、今、設計が終わって、これから建築になりますし、アフリカ館の設計、それに、今回新しく建てたものの反省を生かすということで、エゾヒグマ館につきましては、ご指摘の問題点や、通り抜けられないことよっての問題点、込んでいるときの問題点など多数ございます。これにつきましては、市立大学の学生さんに、この辺を日中に検証してもらって、それをこちらの方にフィードバックしていただくということを昨年度やっております。は虫類館につきましては、お話があったとおりでございます、混んでいるときとすいているときの評価が違うものですから、これは酪農学園大学にご協力をいただきまして、ゴールデンウィークの混雑時の状況、アンケート、それと、閑散時期とどうか、平日のときの状態でのアンケートをお願いしております、これら両方を総合的に分析した上で、アジア館、アフリカ館の建設に生かしていこうと考えております。

○原田委員長 ありがとうございます。

○金澤委員 新しい施設というのは、大体2年なのです。2年過ぎると大体落ちつくのです。物珍しさが2年間続くというだけです。それ以上続くようであれば、本当に展示がいいということです。そうやって見ていただくと、わかりやすいと思うのです。2年で飽きられるという言い方は悪いけれども、大体2年たつと落ちつくのです。人間というのは結構飽きやすいので。

○山崎委員 混雑については、そうですね。

○原田委員長 ほかにございますでしょうか。

林委員、いかがですか。

○林委員 僕は、きのうも企業研修をしたのですが、2番目の意識改革というところが重要だと思います。企業もそうですが、意識というのは、改革した後に変わるのですね。改革するという事は、変わり続けていかなければなりません。そういう意味では、この2は、評価したというときから次の評価が始まっているという意味では、すごく重要です。この意識が変わったことによって、黄色になったところ、変わったところはたくさんあるのだろうと思うのです。そこを最終的に評価して、つまり、次につなげていくことになるのだろうと思います。要するに、これはこれでよかったということではなくて、まず、また2に返られなければいけないと思います。私も、きのうの企業研修で言われました。もう変わったと思った瞬間から、次の安定に入ってしまうので、やはり、変わり続けていくということです。それは、グリーンを変えていくことばかりでなくて、変わったところの黄色も、もとに戻ったのではないだろうかというチェックをしていくと、本当に素晴らしい形になると思います。

この評価は、正確には85ですか、素晴らしいですね。これだけ細かくやられて、ご苦労さまでした。

○原田委員長 これは、監査指摘事項があったので、これを何とかしなければ監査した結果が意味を持たないわけですから、それを構想計画の中にどれだけ取り込んで、それを具体的な基本計画の中の個別のアクションに展開していけるか、そういうふうに考えていけ

ば、この全体の動物園のアクションが監査の指摘事項とつながっていくのではないかと思います。そういう意味では、できるだけわかりやすくかかわるような、実はちょっと無理なところもあるのですが、まあまあ、いけていると思います。

この間、動物園の職員の方々、執行部の方々、それを支えるボランティア等の市民の方々が随分いろいろなことを具体的にやられてきたなど、私自身もちょっと驚いたところがあります。おっしゃられるとおり、その総体が動物園に対する見方を変えてきたのだというふうに思いますけれども、それをそのまま流しているだけでは、山を下っていくだけにすぎないかなと思えるのです。やはり、新しい構想が次に打ち出されていく、それに沿って具体的なアクションが展開されていくということが必要ではないかと私も思っております。

ほかになれば、議題1はこの辺でとどめたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○原田委員長 ありがとうございます。

それでは、動物園のこれまでの実績評価の案をとって、このような評価であったということで、ご承認いただいてよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○原田委員長 ありがとうございます。

それでは次に、議題2の今後の基本計画についてですが、資料2の基本計画推進の課題と今後の方向性について、説明をよろしくお願いいたします。

○事務局(酒井円山動物園長) 前は、私どもの自己評価ということでございまして、それに基づいて、今回の課題と今後の方向性をつくらせていただきました。今、市民動物園会議の方から正式な評価を改めていただきましたので、これと合わせる形で、今後、この資料の内容について見直しをしていく、それから、きょうのご議論をあわせた形で修正していくということを前提に、現時点での案についてご説明をさせていただきたいと思っております。

今回の基本計画推進の課題と今後の方向性でございます。

この内容につきましては、このリスタート委員会を設置して基本構想をつくられ、その後の基本計画に着手しまして、これまで5年間が経過したわけでございます。一つの目安となる100万人という目標には現在達してはいないものの、一昨年は92万人、昨年は83万人ということで、入園者だけを見れば順調に増加傾向にあるのではないかと判断しているところでございます。これにつきましては、飼育現場は、先ほど議長からも評価いただきましたように、私どもの飼育サイドを中心とした頑張り、そして、リスタート委員会の皆様を初め、市民動物園会議の皆様にはいただきましたアイデアをもとに、さまざまな取り組みを行ってきたということと、その計画の方向性に誤りはなかったということを証明するものではないかというふうに私どもは評価をしているところでございます。

一方、この5年間でさまざまなことが起きましたし、社会情勢も変わりました。3月1

1日の大きな震災もございまして、環境への配慮型社会への移行ということが一層鮮明になって、市民の環境に対する意識も高まり、それに伴って動物園の果たす役割も非常に大きなものになってきているのではないかと考えます。こうした背景と実績を踏まえまして、今後の基本計画の見直しを行っていきたいと考えております。ただ、先ほど申しましたように、大きな方向性は変えるつもりはありませんので、できればマイナーチェンジという形で今回の方向性を定めていきたいと考えてございます。

そこで、今後の基本計画の中で、課題、役割、行動指針について全体で9項目を上げましたので、ここで簡単にご説明をさせていただきたいと思っております。

まず、札幌市の環境教育の拠点としての役割ということで、この5年間、取り組んでまいりました。環境教育の拠点ということで、今、飼育サイドも非常に頑張っていて、ドキドキ体験等、これまであまりなれていない人に対する説明につきましても、それぞれが工夫をして、各自が勉強して、夢中で進めてきたのがこの5年間ではなかったかと思っております。

ただ、こうした内容につきまして、これから、より一層、正確で最新な情報に基づいて市民にお伝えする必要があるだろうという現場サイドの意識もございまして。このため、これまでやってまいりましたが、大学等と連携して、専門家の意見を取り入れるような機会をつくるとともに、専門家から情報提供が行われるような仕組みづくりを、より一層、進めていく必要があるだろうということでございまして。

また、継続的に環境イベント等を開催していくためにも、専門的な知識を有し活動を行っている機関、大学、NPOとも積極的に連携した取り組みを行っていくということが、この環境教育の拠点化を進める上で、今後も非常に重要になってくるだろうという意識を持ってございまして。

2番目につきまして、北海道の生物多様性確保の基地についてでございます。これについての課題でございますが、この5年間もさまざまな希少種の繁殖について頑張りを、成功してまいりました。具体的に言いますと、ユキヒョウ、レッサーパンダ、毎年毎年繁殖しておりますダイアナモンキー、ヨウスコウワニ、そして、何と云っても、ホッキョクグマにつきましては、国内で自然繁殖をしているのは、この10年間で円山動物園だけという実績も培ってきたわけでございます。生物多様性の基地としての役割を十分に果たしつつあるのかなと考える一方、今、国内のホッキョクグマは円山の血統しか同世代はないというような状況もございまして、海外との交流ということもずっと努力してまいりましたが、海外とのパイプは一朝一夕につけられるものではないということもわかりました。

そこで、平成23年度、国際種情報システム（ISIS）に加入し、これを活用していくことを決めまして、現在、きょうもやっておりますが、獣医を中心にこのシステムの研修中でございます。

今後は、ISISというものも使いながら、海外の動物園等との交流を図り、より一層、生物多様性確保の基地としての役割を果たしていかなければならないだろうと考えております。

3番目としまして、多様なメッセージを発信するメディアの役割についてでございます。

円山動物園の中で、この5年間、さまざまなイベント等を通じて発信を行ってまいりました。例えば、障がい福祉であったり、高齢者福祉であったり、子育て支援であったり、そういった取り組みを数多くやってきており、我々として、年間約100本を超えるイベントを開催しておりますが、このイベントの中に込められている我々のメッセージが本当にうまく来園者に伝わっているのかというところの検証が不十分だったと反省しております。昨年度、委員の皆様からご指摘もございまして、主要なイベント等につきましては、この辺の意図がきちり伝わっているのかということを検証しております。次につなげていくような必要な改善を図っていくことを考えております。

また、関連部局の職員にも、動物園に積極的に足を運んでもらって、動物園の現状を見てもらって、子どもは多様なメッセージを発信できるメディアなのだという価値を見てもらって、より一層、多様なメッセージを発信できるメディアとしての機能を生かしていくようなことをやっていきたいと考えております。

次に、行動指針を実行するための課題でございます。これも三つございます。

まず、子どもの非常に重要な視点でございます「私の動物園」ということで、「私の動物園」として、札幌市民を初めとする来園者に自慢してもらえることを目標にさまざまな取り組みをやってまいりました。この市民動物園会議もそうですし、アニマルファミリー制度、それと活発なボランティア活動を通じて、「私の動物園」という視点からの行動をより積極的に進めていきたいということで、この5年間、やってまいりました。

その結果として、年間パスポートは平成17年から発行しておりますが、リピート率が非常に上がってございまして、当初、2.01回程度だったものが、この5カ年の間に、昨年は2.7回を超えまして、そういった意味で、繰り返し繰り返し来ていただける動物園になりつつあるということが言えると思います。

これは、ある意味、革新的とも言える取り組み、アニマルファミリー制度、動物園会議といった取り組みは、他園との差別化、そして、収支均衡の観点からも非常に重要でありまして、今後もより一層、この拡充に取り組んでいく必要があるだろうと考えているところでございます。

続きまして、生物多様性の確保に向けた行動でございます。

環境の取り組みが非常に重要になってきていることと、この円山という非常に自然豊かな土地柄に恵まれているという中で、一昨年には、動物園の森もオープンしまして、その中で、市民の方に身近な動物たちに対する関心を高めつつ、子どもも、身近な失われつつある自然というものを、外来種の駆除を初め、ニホンザリガニ、オオムラサキの繁殖技術を確認しながら、これまで、ここの取り組みについて進めてまいりました。オオムラサキにつきましては、先日、動物園の森に行きましたら、今はちょうど産卵時期で、卵を生みつけている姿が報道され、本当に日に日に回復傾向にある様子を見て、これまでの取り組みが実りつつあるなど考えております。



また、こうした身近な動物とあわせまして、オオワシの野生復帰という非常に大きな取り組みについてもこの5年間やってまいりました。これは、円山生まれのオオワシを、何とか絶滅の危機に瀕する前に技術的に確立をして、サハリンでの放鳥を最終的な目標にしたプロジェクトです。私も、いろいろ取り組んでみまして、関係省庁も経産省、外務省、環境省、文部科学省等、多岐にわたるといふことあります。国際問題、渡り鳥条約の問題等ございまして、クリアしなければならないものがかなりあるといふこと、そして、日本動物園水族館協会の種保存委員会等とも意見交換をさせていただいている中で、まず、国内の保護猛禽類等の保護とリハビリ、放鳥といふことから始めたらどうなのだといふご提案もいただいております。したがって、今後は、そういうところと意見調整をしつつ、保護個体の訓練、国内での放鳥、人工授精等、やるべきすそ野が広い調査研究を進めていながら、将来的な放鳥を考えていきたいと思っております。

行動の最後ですが、自然豊かな円山エリアの中核施設としての行動でございます。

これにつきましては、先ほどの市民会議からの評価の中でも、おこなっているところではないかといふことで、私どもの中でもそのように自己評価をしております。これは、当園だけで解決することができないさまざまな困難な課題もございます。地域住民との協議、他部局との連携等は必要な内容も多数ございますので、今後は、こうしたところと引き続き連携をとり、協議を続けながら取り組んでいきたいと考えています。

具体的には、先ほどお話がありましたように、長年の懸案事項でございます地下鉄円山公園駅から動物園までの園路のサイン計画や、どきどき感、わくわく感のある園路に変えていくといふことです。これは、市の関係部局、交通局、中央区役所の土木、みどりの公園の担当、公園全体を考えると、スポーツ部であったり、北海道神宮もあります。そういうところと連携を図りつつ、実は、来週に第1回目の会議をやることになっておりますので、今後、そういう小さなところから始めますが、ぜひ、円山動物園が円山公園の中核施設として地域の活性化に寄与していきたいと考えているところです。

なお、一番最後には書いてありますが、この計画の中には、周辺施設と連携した自然エネルギーの活用という非常に大きなテーマの内容も書かれてございます。これには、技術的な課題であったり、効率性の問題等も含まれております。これは、後ほどご説明しますが、修正を行わなければならないのではないかといふ部分も含まれておりますので、こうしたことも含めての見直しを行っていきたいと考えているところでございます。

次は、経営戦略上の課題でございます。

これにつきましては、最も大きいものが収支均衡を目指すという大きな経営上の目標でございます。そのために、この基本計画の中では、年間入園者数は100万人を目指し、それによって収入をふやす一方、支出面では経常的経費30%削減を目標とするといふことがこの中に明記されてございます。

私どもは、これを目標に今までさまざまな取り組みをやってきたわけですが、入園者数はまだ100万人には達しておりません。また、入園者数がふえるといふことは、無料入

園者数もふえるということで、入園料だけでは収入倍増ということは厳しいというのが一つの課題です。ですから、収入面で考えれば、入園者数の増加プラス、その中でも有料入園者数、収入面で言いますと、今後はアニマルファミリー等、先ほどの評価の中にもございましたが、寄附文化をより広めていくような取り組みもあわせて必要かなと考えております。

一方、支出面30%減というのはどうだったかというところでございます。水道の使用料等の削減は順調に進んでおりますが、今度は、集客のためのイベントで頑張れば頑張るほど、それに伴う電気の使用量が増加しております。また、今も園内のあちらこちらで工事しておりますが、実は、これは獣舎の建設ではなく、熱源転換の工事を実施しているところでございまして、順次、転換が終わるものからガスの暖房に切りかわっていくわけですが、それまでは、重油とガスと併用の期間もあと2年ほど続きます。あわせまして、ここ数年、重油の価格等が上昇しているとか、えさ代に関しましても、主要品目の価格が非常に大きく上昇しており、動物園だけではどうしようもない他律的な要素が非常に大きいということで、現時点においては、この経費削減については、今後、大きな削減を見込むことはなかなか困難な状況かなというのが私どもの見方でございます。

このため、先ほど言いましたように、収支均衡を図るためには、入園者数の増加の取り組み、そして、有料入園者数の増、寄附の増加、それにあわせまして、年間パスポートだけではなく、この入園料全体のあり方をどうしたらいいのかというところで、見直しのタイミングを考えていきたいということです。

次に、4番目のソフト事業に関する課題でございます。

このソフト事業も、先ほどの説明と重複しますが、これまで、夜間開園をやりましたり、新規客層を開拓のために、LOHASナイト、トワイライトZOOなどのさまざまな新しいイベントや、冬場の集客に向けた冬のイベント等、年間100本を超えるイベントを実施してまいりました。そのほか、ホームページやブログも職員が随分頑張って積極的なプロモーションをした結果、入園者数の増にはかなり貢献しているだろうと考えております。

これも、先ほどと重複しますが、してきているだろうということで、イベントはどの程度の効果があったのかという詳細な効果の分析に関しては十分ではなかったと我々は考えてございまして、今後、こうした分析をきっちりやることによって、今後の戦略にきっちり生かしていくということが必要でしょうし、また、ソフト事業の本数だけふえていくということのないように、選択と集中の考え方によって新たなものをやるということと同時に、今までやってきたものを評価し、やめるべきものはやめていくということをしてしながら、重点化していくということがこのソフト事業の非常に大きなところだろうと考えております。

課題の最後でございまして、施設整備と動物管理に関する課題でございまして。

基本計画では、円山エリアにおいて、そのランドスケープ等との一体的な空間創出、そして、段階的展示導入方式——円山メソッドと呼んでおりますが、動物の環境エンリッチ

メントから始まって、お客様にどきどき、わくわく感を伝え、最終的には、環境について学んでいただいて、知らず知らずのうちに知っていただくような展示方式を理想としまして、それを目標にさまざまな施設計画をやっております。こういうものを進めてきておりますが、今後も、こうした考え方に基づきまして、計画的に施設整備ということを進めていくことを考えていきたいと思っております。

あわせて、先ほども申しましたように、東日本大震災が起きまして、そのときもかなり話題になりましたが、飼育動物の命を守るという視点も非常に重要だと思っておりますので、こうした要素も今後の施設整備、動物管理という中にきっちり入れていくということが非常に大きいだろうというふうに課題として掲げてございます。

そして、それら踏まえまして、では、今後の方向性としてどうなのか、これまでの課題評価に対して今後は一体どうするのかというところが6番でございます。

まず、環境教育の推進に関しましては、冒頭申しましたように、何度も繰り返し出てきますが、やはり、ことしの3月11日以降、国民の意識が、安全、環境の配慮に対して非常に大きく傾斜をしているところでございまして、円山動物園も、これから見直す基本計画も、そうした環境の保全への取り組み、環境教育の推進というものを非常に大きな柱として今後も据えていく必要があるだろうし、今後とも、動物の展示やイベントを通じて、来園者に対して、こうしたものの大切さ、環境の大切さ、命のとうとさをわかりやすく伝えていくことが何より基本になるだろうということをここで改めて確認をしたいと思っております。

次に、新規客層のさらなる開拓という方向性を2番目として出しております。これに関しまして、先ほど評価の中で、リピート率が非常にあがっており、市民に繰り返し来ていただける動物園になりつつあるというところでございます。ただ、なりつつはあっても、札幌の192万人全員が繰り返し来ていただければ300万人を超えるはずですが、そうはなっていないというところでございますので、やはり、動物園の魅力を感じていただいている札幌市民を初めとする来園者の方は、まだ、その数が、我々が目標とするものには足りないのだろうと考える次第でございまして、これから、この動物園の魅力を再認識していただける層を、今まで動物園には来たことのない層の新たな開拓がこれから我々に課せられた一つの大きな課題ではないかということでございます。

ですから、新たな客層開拓のために、例えば今年度から60周年ということで始めていますが、シニア層と市内またはその近郊に、今、区役所を通じてお声がけをしております。団体客の研修会や見学会というものを動物園でやっていただくことを進めております。こうしたことも、60周年のことしだけではなく、来年以降も地道にやって、動物園の新しい魅力を感じていただくということを我々はやっていかなければならないと思っております。

また、冬の動物園も、なかなか難しい問題でございまして、冬は本当に元気な動物たちが多いため、そういう動物の魅力をアピールして、冬にも動物園にたくさん来ていただくような企画もやっていかなければならないと思っております。市民だけではなく、これまで

もJTBなどと連携して観光ツアーのようなことをやっておりますが、今後も、観光客に対して動物園はおもしろいのだよというようなPRにも力を入れていかなければならないと思います。こうしたことで、新規客層のさらなる開拓をしていく必要があるだろうと考えております。

3番目が、事業評価に基づく取り組みということを上げさせていただいております。これに関しましては、先ほどからソフト事業のところでも出てまいりましたが、施設づくりについて、先ほどの山崎委員の話もそうでしたが、事業施設をつくり、イベントをやり、事業をやったときに、一回一回の事業評価は必要だろうということで、今後、この見直しをきっかけに、事業評価ができるような指標をつくっていかうと考えております。そのことによって、目標となる成果指標を設定し、例えば、来園者アンケート等を実施することによって、この成果を検証し、次回以降の事業、施設づくりというものに反映させていかうと。そうすることによって、事業の効率性、効果性を高めていく必要があるだろうと考えてございますので、こうした内容も次の方向性という形に入れていきたいと考えております。

4番目は、ショーウインドウとしての取り組みということです。ショーウインドウの取り組みは、基本計画の中にはなかったのですが、決して新しい概念ではなくて、言ってみれば、多様なメッセージを発信するメディアの役割と、監査の方からも指摘された事項でございますが、組織の効率化ということも指摘されました。その後、さまざまな部局との連携調整や働きかけということも、今、円山動物園は集客力も徐々に上がってきたので、円山動物園を使って何かをやろうかという部局もふえてきていると思います。今週も、交通局さんが、交通局40周年の記念イベントを動物園の中でやるとか、そういう事業連携も進んできておりますので、私どもは、多様なメッセージを発信するというのを、動物園単独ではなく、札幌市全体として、札幌市の進むべき方向というものを、ショーウインドウという言い方で連携して発信していくという視点をここで強調して書かせていただきました。

最後は、持続可能な体制づくりということでございます。

平成18年度から、意識改革、経営改革ということに着手をしてまいりまして、これまでの管理課ということで管理するだけではなく、組織として経営して、管理と経営と両方だというふうに名前から変えていきました。広報を初めとした経営の要素をこの5年間で入れてきましたし、飼育課も、単に飼育するだけではなく、それをお客様にどう伝えていくのかという視点が同じく重要だろうということで、飼育展示課という名前に変えまして、それにあわせて職員の意識も変えてきたという内容でございます。

それに伴いまして、この5年間で業務の内容や質が随分大きく変化しており、業務量や専門性の要素が増しておりますので、今後、円山動物園はこれ以上に魅力的な動物園として運営できるように努力していくことも必要ですが、持続的な運営、専門性の確保、そのための組織づくり、人づくりが非常に重要になってくるのではないかと、そこに力を入れて

いくべきではないかと考えております。また、これは動物園の職員だけではなくて、先ほどの評価の中にも出てまいりましたが、市民参加という視点をこの中に十分に取り入れて、ボランティア制度の充実ということも考えていかなければならないだろうと考えております。あわせまして、現時点においては書き切れておりませんが、持続可能な収益も担保していくことになれば、入園料収入等だけではなく、市民の皆様にも協力していただいてこの動物園を運営していくのだという体質づくりも、非常に難しい課題ではございますが、この中に盛り込みながら、次の基本計画案をつくっていきたいと考えているところでございます。

続けて説明させていただきます。

今の方向性に基づきまして、A3の紙もあわせて説明いたします。その後にご意見を賜りたいと思います。

課題の整理と大きな方向性についてお話をさせていただきまして、具体的な見直し内容について、先ほど言いました49枚物の資料が、書きぶりを改めたところとの比較表になってございます。その概要をまとめたものがA3でございまして、このA3でその概要についてご説明させていただきたいと思っております。

まず、第1章としまして、円山動物園の役割と行動指針です。

1は、札幌市の環境教育拠点としての役割でございます。

ここで、新たに成果指標ということで、今回の成果指標案としましては、環境教育プログラムを年間10本は実施しようということで、その満足度については80%を目標にしていこうということで設定させていただいております。

具体的な行動計画でございますが、環境教育を推進するため、大学等の専門機関と連携を図りながら、最新の情報に基づく環境教育プログラム等を実施するというので、先ほど言いましたように、今後、より専門性と最新の情報ということを重視した内容にしていきたいと考えております。

2番目は、園内施設での自然エネルギーの活用を進め、動物科学館で集中的に展示、解説をするということです。これは、環境都市推進部と連携しまして、動物科学館だけでなく、園内各所に、今後、雪冷熱施設、ペレットボイラー、太陽光発電、さまざまな新しい自然エネルギーの活用が進んでいきますので、こうしたものの意義や効果を初め、動物科学館の中で円山動物園の取り組み全体がわかり、その上で園内を勉強して回っていただくことができるような構造にしていこうということでございます。

次に、北海道・北方圏の生物多様性確保の基地としての役割についてです。

この成果指標としまして、今、昨年からは保護した猛禽類のリハビリをしておりますが、この先、保護した猛禽類の年間3羽放鳥するというのを目標にしたいと思っております。これにつきましては、環境省と連携し、こういう個体を、安定的供給と言うのはおかしいですが、円山動物園に預けたいと言っただけのような信頼関係を今後つくっていくことが必要だと思っておりますが、そういうことを進めつつ、実績をつくっていきたいと考えております。

す。ここにも書いておりますが、保護・放鳥実績をつくとともに、繁殖生理についての研究を行っていきたいと思います。

あわせて、新たにシマフクロウの飼育を行い、繁殖を目指しますということです。これにつきまして、シマフクロウの施設は、一昨年に既に完成しておりますが、今、環境省、釧路動物園と話を進めておまして、早ければ今年中にも入ってくるということでございますので、まず、シマフクロウの飼育の実績をつくって、できれば、それに見合うペアを導入し、シマフクロウの飼育を行い、繁殖を目指すということをやっていきたいと考えております。

それから、来年の冬にアジアゾーンが完成いたしますので、この建設に合わせて、現在、ワンペアで飼っておりますユキヒョウ、レッサーパンダ、これらを複数ペアでの飼育を目指し、より絶滅危惧種の繁殖を目指していきたいということでございます。

それから、後ろに書いている金額につきましては、臨時的経費ございまして、このアジアゾーンの建設に合わせて、約800万円です。これは輸送費を想定しておりますが、ペアを入れるのに、買うということではなくて、800万円というのは、国際的な移動ということも含めて考えておりますので、800万円の予算をこの中で盛り込んでいきたいと考えております。

前の基本計画の中では、多様なメッセージの発信のメディアとなっていくと。今回の中では、関係部局との連携強化という要素も入れて、札幌市の施策のショーウインドウとしての役割という形で盛り込ませていただきました。この中で、さまざまな情報発信をやっていきたいと思いますが、そういう内容が来園者にきちんと伝わっていくというところで、先ほど言いました評価をしつつやっていくということでございますので、この辺は、理解度80%ということの一つの成果指標として設定させていただいております。

一番最初の丸は、今、説明してしまった内容でございます。さまざまな関係部局と連携しながら、動物園を活用したイベント等を展開していくということでございます。

2番目は、生き生きとした高齢化社会のメッセージを発信するイベントを実施するというので、現在、200万円の予算を見込んでございます。これは、鳥獣動物に関する詳しい説明書き等の看板等の作成に要する費用と考えております。

そのほか、市民芸術文化のイベントとして、写生会であったり、撮影会であったり、音楽祭等のイベントを新たに実施したいと考えております。

また、これまでもずっとやってきておりますが、さっぽろ雪まつりの期間に、動物園の中でもスノーフェスティバルを開催し、園内ににぎわいを創出するとともに、冬の動物園の魅力を知っていただき、また、札幌市の冬の魅力そのものも高めていくことに寄与したいということで、400万円を見込んでおります。冬に、スノーフェスティバルと雪まつりと連携することになりますと、警備費用等がかかってくるということでございまして、できれば、私どものスノーフェスティバルで予算化を図りたいということで、財政当局と交渉していきたいということでございます。

次は、ガイドボランティアについて、研修体制を整備し、レベルアップを図り、ガイドボランティアによるツアーの受け入れの充実を図るということでございます。これは、先ほどの動物園会議からの総括の中にもございましたが、ぜひ、この辺にも力を入れて、市民力を活用するというか、市民とともに動物園づくりをやっていくのだということを、動物園をフィールドにやっていきたいと考えております。

また、先ほども言いましたように、交通局とも連携を進めております。交通局との連携ということは、すなわち、公共交通の利用を推進するということでございますので、こうした公共交通の利用を推進するイベントも実施をしていきたいと考えているところでございます。

続きまして、4番目の「わたしの動物園」という視点からの行動でございます。

この成果指標は、現在、アニマルファミリーの口数は約1,000弱でございますが、それをアニマルファミリー2万人、市民の1%というところで設定させていただいています。ですから、これに関しましては、今のアニマルファミリーのあり方をどうするか、アニマルファミリー制度についての制度の見直しを図り、よりすそ野を広く展開できるようなことも検討していきたい、こうした新しい動物園サポーターづくりということを進めることによって、札幌市民のドネーション文化を育てることに寄与していくという意味からも、ぜひ、サポーター制度のすそ野を広げていくことを実現したいということで、2万人という目標を掲げさせていただいております。

それから、非常に好評なみんなのドキドキ体験でございます。現状、特定の飼育員に特定のメニューというところがほとんどでございまして、これらは、体制の問題もございまして、今、グループ制度を飼育に導入しているということもございまして、この辺をうまく活用し、発展させて、飼育員の個性を出すメニューは、それはそれとしてきちっと残していくということにしつつ、定番メニューとして、円山動物園の看板メニューとなるようなドキドキ体験メニューをふやしていきたいと考えております。現状では、トビ、猛禽類のフリーフライトがそれに当たるものですが、このほかに幾つかの定番メニューをつくり、内容の充実を図っていきたいというふうに考えてございます。

既に市立大学にご協力をいただきながら、獣舎のデザイン、園内サインについて共同で研究し、また、実施もしてきているところでございますが、今後も、これにつきまして大学等と共同研究という形で実施をしていきたいと考えてございまして、これについても200万円の予算を見込んでいこうと考えております。

そして、市民が、長年、円山動物園に親しみを持って来園することができるように、円山動物園でしか得られないものですね。先ほどの市民動物園会議の中のバインダーのお話もありました。そうした定期的に作成し、発行し、思い出としてきちんと残っていくような資料づくりについても検討していきたいと考えております。私の動物園という視点から、そういったものの充実も図っていきたいと考えております。

次は、生物多様性の確保に向けた行動でございます。これに関しましては、体験プログ

ラムをことしから実施しますが、これを年間10本実施するということを成果指標に掲げさせていただきます。

オオムラサキ・プログラム、ニホンザリガニ・プログラムについて、動物園の森復元プロジェクトとして、オオムラサキ等の生息環境を整備しますということです。これは既にやっておりますが、より一層、充実をさせていきたいということでございます。

また、動物園の森に生息する動植物を調査し、これらをきちんと資料化していくということもこの5年間のうちにやっていきたいと考えております。

次に、大学等との連携により、動物園の森において、生物多様性の大切さを学ぶ体験プログラムを実施するというので、これには年間50万円の経費を見込んでございます。この辺につきましては、今年度、既に準備を進めているところでございまして、今年度から、毎年、こういった体験プログラムの充実化を図っていくことを考えております。

そして、6番目は、自然豊かな円山エリアの中核施設としての行動ということでございます。

先ほども再三出てきましたが、生活指標としましては、誘導サインのリニューアル、そして、円山街歩きイベントの継続実施をしていきたいと考えております。

具体的には、円山エリアの総合的な交通対策として、公共交通の利用促進、具体的には地下鉄ですね。地下鉄円山公園駅から動物園までの来園ルートや誘導案内サインについて、関係部局、そして、市立大学にご協力いただいて、検討、そして、充実、実現を図ってきたいと考えております。

また、これも懸案でございしますが、円山川を清流に戻していこうということでございます。三面護岸コンクリートをどうやって自然に近い形に戻していくのかということ、動物園だけでできる話ではございませんので、地域住民であったり、河川課、下水関係等と関係部局の協議をし、自然を取り戻すための取り組みも行っていきたいと考えております。

右側に行きまして、第2章でございます。

経営戦略とソフト事業ということで、まず、7番目としまして、持続可能な経営戦略という内容で、これについての成果指標でございしますが、ここでは、年間入園者はまだ実現できておりませんので、100万人を大きな目標として掲げさせていただきます。

先ほども、方向性の中でお話いたしました、経常的収支の均衡が非常に大きなテーマであり、課題として残っているということでございますので、これを目標にするということでございます。そのため、100万人とともに経常的経費も、なかなか難しい状況ではありますが、削減をしていかなければならないということで、ここでは経常的支出10%減を、現時点での目標という形で掲げさせていただきます。

ここで、入園者100万人を目指し、冬期間も楽しむことができるよう、施設整備やにぎわいの演出を行うとともに、冬の動物園開園をしているのだということを積極的にPRしていきたいと考えております。

次は、経常的収入拡大に向けまして、さまざまな形での寄附金の拡大を図るとともに、



アフリカゾーンのオープン時期を目安としまして、入園料の見直しも行っていきたいと考えております。具体的には、入園料そのものの見直しなのか、年間パスポートの料金の見直しなのか、この辺をあわせて考えていきたいと思っております。

あわせまして、動物園の魅力アップのための基金の創設についての検討も行います。

施設の新築、来園者数の増加等の経費増加予想を考慮しまして、経常的経費の削減について平成17年度比で10%の削減を目指しますということもここに掲げさせていただいております。

次は、ソフト事業の展開でございますが、成果指標でございます。これは、先ほどの同じですが、イベントの満足度について、アンケート等を取りまして、80%を目標にさせていただいております。

行動計画でございますが、イベント、ホームページ、園内フラッグ等で、季節を感じられるような、春、夏、秋、冬、いつ来てもわくわく、どきどき感があり、季節感を感じられるような園内のしつらえについても工夫をしていきたいと考えております。

そして、非常に評判のいい夜の動物園について、ぜひ日数増加を、動物の体の負担、飼育サイドの負担、もちろん、経営サイドの職員の負担を考えながら、どのぐらい増加できるのかということを検討したいと考えております。

また、冬の動物園の話題性を確保するため、今、旧は虫類館の解体を進めておりますが、その後に、園内に大規模なシンボルツリーの設置を考えておりまして、このようなものを植樹することによって、一つのシンボリックな場所という形でさまざまなイベント行事等に使用できるようなことを考えていきたいと思っております。

それから、今もやっておりますが、宿泊体験、宿泊学習ということも、市民のニーズが非常に強いので、これらについて、宿泊体験のための例えば宿泊施設のようなものについても検討したいと考えております。

それから、情報、メディア関係です。ホームページ等でも動画配信にぜひ力を入れていきたいということです。これは、人的パワーの面で難しいところがあるのですが、動画配信等をより充実させていきたいと思っておりますし、ことしの3月12日にオープンしました駅前地下歩行者空間で既にライブ映像等を流しておりますが、今後こうした映像コンテンツを利用したプロモーションを実施していきたいと思っておりますし、原田委員長から再三ご指摘いただいておりますライブ映像の配信についても、何とか実現をしたいと考えております。もう少々お待ちくださいということでございます。

それから、総合学習等の授業での活用を考慮しまして教育メニューや教材ワークブックを公開するとともに、内容充実を図りつつ、学校へ積極的にPRし、活用を推進していきたいと考えております。

最後は、施設整備と動物管理でございます。この新施設の展示の満足度を、新設オープン後のアンケート等で満足度80%を目指す施設をつくっていきたいと考えております。

まず最初に、園内の樹木の取り扱い基準を策定し、樹木診断に基づき計画的に管理する

とともに、施設整備に合わせて植樹を実施するというごさいます。動物園の森もそうですし、園内もそうですが、この辺はきちんと診断をしないと、外側から見てもわからない中で、腐食が進んだり、空洞化が進んでいたりする樹木もかなり見受けられる状況になっておりますので、これをきっちりやって、安全にもかかわりますし、そういうものの適切な間伐等をやっけていかないと、森全体が元氣にならないということもありますので、こうしたこともきっちりやっていきたいと思っけております。これには、年間100万円等を見込んでおります。

次は、ちょっと大きいお話でございすが、今、繁殖が非常に順調に進んでおります世界の熊館の改修でございすが、ホッキョクグマの繁殖基地としての役割を果たすため、今、複数ペアでの飼育ということもこの中で考えていく必要があるだろうということで、現在の世界の熊館の改修費用というものも考えていきたいということと、それと、やはり、展示の見せ方そのものは、かなり古い施設でもございすが、この辺は、繁殖センター的な役割の世界の熊館と、今後、アザラシ館などと合わせた形で、いわば第2ホッキョクグマ館、アザラシ館の建設ということと、今後の基本計画の中に、アフリカ館以降の話として盛り込みたいということと載せさせていただきます。

それから、猛禽類についてでございすが、猛禽類のトレーニングケージ、繁殖ケージと同じゾーンに、繁殖技術確立のため、中小の猛禽類についての繁殖・研究棟を建設したいと思っけております。これは、当初からの計画でございまして、これについても4,400万円を現時点で動物園としては見込んでおります。

それから、アジアゾーンの建設に合わせまして、動物舎に薄型ディスプレイを配置しまして、各動物の情報及び世界の動物園での状況、自然界での状況を、こういうメディアを使っけての提供をやっけていきたいということで、これには800万円を見込んでございすが。

それから、モンキーハウスについてでございすが、狭隘であるというご指摘もございすが、今回、アジア館ができますと、アジアに生息しているモンキーについてはアジアゾーンに移動しまして、モンキーハウスそのもののスペース的なゆとりが出てきますので、新たなモンキーハウスの展示スペースの拡大をこの中でやっけていきたいということで、6,200万円を見込ませていただいけております。

あとは、喫緊の問題とも言えるのですが、サル山について、山自体がコンクリートなので、老朽化が相当進んでいるということで、このサル山についての全面改修も、かなり優先度合いを上げて考えなければならないだろうということで、これについては1億2,300万円を見込んでおります。

それと、熱帯鳥類ゾーンでございすが、ここにつきまして、熱帯雨林の環境ということでございすが、今後は、南米種を中心に展示の充実を図っけていくとともに、来園者がゆったりと憩えるような全天候型、開放型の施設の活用を検討しますということと。今現在は南米ゾーンがないものから、例えば、こういう熱帯鳥類ゾーンを、そういったものに考えていくということとを少し検討していきたいと思っけております。

それから、ふれあいゾーンについて、ふれあい教室の充実を図っていきたいと思います。これにも50万円を見込んでございます。

それから、動物科学館について、現在、キリンのタカヨと象の花子の骨格標本がござい  
ます。そのほかにも、剥製等が置いてございますが、この辺はきちっと分類整理をして、  
動物科学館での見せ方の充実を図っていきたいと考えております。

そのほか、各トイレにジェットタオル等を設置し、身体障がい者用トイレの建設を進め  
ていきたいということで、これは約5,400万円を見込んでございます。

それから、イベント・休憩のための施設として、今現在、野外ステージもかなり古くな  
って老朽化しておりますので、これを整備したいということで、これには1億9,000  
万円を計上しております。

このほか、先ほどの評価の中にも出てきましたが、コンビニやレストラン、各店舗につ  
いて、本当に利用者にとって満足のできるサービスになっているのかということについて、  
前回、服部委員からもご指摘がございました。この辺は、利用者アンケート等による運営  
の改善を図っていきたいということを書かせていただいております。

それから、先ほど、実現できなかった中にも書いておりますが、園内交通についてでご  
ざいます。交通方式、運営方式等を含め、再度、違う視点から調査を検討していきたく  
と考えております。

それから、今度は駐車場の問題でございまして、第1駐車場の案内サインについて、も  
っとわかりやすいものに整備を行っていきたくということです。

先日の北海道新聞にも出ておりましたが、駐車場の料金の問題でございまして。この建設  
費の償還が平成26年度いっぱい終わりますので、これを契機に、駐車場の料金はどう  
あるべきなのか、高いのか、安いのか、それとも時間制にするのか、さまざまな検討要素  
があると思いますので、その辺を含めて検討したいと考えております。

また、南側の入園口がございまして。現在、特別な場合にしか使っておりませんが、この  
活用について、再度、検討をしていきたくと考えてございまして経費のところについては  
まだ検討中ということで、今後、詰めていきたくと考えてございまして。

そして、市民動物園会議の中で何度か議論になりましたゾウの導入についてですが、獣  
舎建設、そして、維持管理費用を提示した上で市民アンケートを実施し、導入の是非を判  
断するというものです。導入する場合は基本計画を策定するというのですが、ゾウの導  
入を検討するという事は、今回、上田市長は当選いたしましたけれども、マニフェスト  
の公約事項でございまして、この任期内に結論を出すという方向でございまして。

具体的に言いますと、昨年、一昨年と調査をしまして、ヨーロッパ等でも、ゾウを群れ  
飼いすることによって、札幌市のような寒冷の地でも十分に繁殖させている実績もござ  
います。そういう中での飼育、展示方法等を参考に、今年度中に、円山でゾウを飼うのだ  
とすると、例えば、ヨーロッパのものを参考に、こういう施設がいいのではないかと  
いう案をつくらせていただきまして、広報さっぽろ等で市民にお示しし、その後、アンケートを

とっていくという段取りで、最終的な結論をその後に出していくことになろうかと思いません。結論的には、今年度、最終的な調査・分析を行いまして、来年度中に大きな結論に近いものが出てくるのではないかと考えているところでございます。

これで導入するという方向になった場合は、今回、この基本計画の中で、ゾウ導入の基本計画を策定するという事で、2,400万円と書かせていただきました。この辺は、ゾウ舎を建設するという事になると、非常に大きな金額になりますので、恐らく、ホッキョクグマのところとどっちを先にするのかという議論になってくると思います。今ところはゾウは決定しておりませんので、まずはホッキョクグマについて載せさせていただいております。

非常に長くなってしまいましたが、私の説明は以上でございます。

○原田委員長 ありがとうございます。

基本計画推進の課題と今後の方向性ということで、具体的な見直し内容についてそれぞれご説明をいただきました。委員の皆様、何かございますか。

○いがらし委員 最後ですので、最後までゾウにこだわりたいと思います。

アンケートのとり方は、一度、林委員から伺ったことがあるのですが、市民の税金を10億円かけてゾウ1頭を手に入れたいですかと言われると、絶対にノーという返事が来るのです。ですから、獣舎建設維持管理費用を前面に出して、ゾウが円山動物園にいた方がいいですかということは避けてほしいと、とても思います。やはり、聞き方の問題だと思うのです。多分、お金にかえられない付加価値をゾウは持ってきてくれると私は信じているので、本当に大事に大事にしてあげれば、すごく長生きですし、40年も50年もみんなに愛されます。花子は何歳でしたか。

○金澤委員 60歳です

○いがらし委員 やはり、自分の子どもや孫に伝えたいゾウの思い出を、もう一度、つくってほしいと思いますので、そここのところの言い方はよろしくお願ひしたいと思います。

○事務局（酒井円山動物園長） 前回アンケートで、先生がご指摘のような聞き方に近かったものですから、今回、事実は事実としてですが、今、先生がおっしゃったように、我々はどうしてこれを飼うのか、飼ったときの意義は何なのか、市民にとってどういうものがもたらされるのかというものと両方をお示ししなければならないと思います。そこは、気をつけて対応したいと考えております。

○いがらし委員 そうすると、ホッキョクグマはいるのだからいいではないかと思うのです。何を今さら維持しなければいけないのかと感じます。十分にやってくれているので、私自身、ぜひともゾウさんをとと思うのです。

○原田委員長 ありがとうございます。

明快な希望というか、ご意見が出されました。

ほかにどなたかありませんか。

○山崎委員 先ほどわくわく感、ドキドキ感という言葉を何回もおっしゃって、ふと思い

出したのですが、旭山動物園では、動物が亡くなったときに、喪中というマークが出されますね。あれを見たときに、すごく新鮮な驚きがあったのです。やはり、動物が死んだことを伝えるということも教育なのかと思ったのです。以前、ララが生まれたときに、世界の熊館が閉鎖されましたね。私、そのときに、道外の友達を連れて来ていたのですが、単にロープが張ってあって、今は子育て中なので、ここは立ち入り禁止ですという感じの愛想のない張り紙だけがしてありました。また、オオカミ舎のときも、子育て中のため中に入れませんということだけが書かれてロープが張ってあったり、すごくもったいないと思いました。例えば、祝誕生みたいな、喪中のまねではないですが、統一したマークがあれば、ここも生まれている、ここも生まれているという形で認識できますし、単に今は入れませんということだけではなくて、公開までお楽しみにみたいな、そういうものがあるだけで、次にも来ようというふうになると思うのです。ですから、新しい看板は必要なくて、本当に今までやっていることの中で、次も来ようと思わせられるような工夫ができるのではないかと思います。それを思い出しましたので、申し上げました。

○事務局（酒井円山動物園長） もうちょっと言い方があるのではないかということですね。

○原田委員長 ありがとうございます。

いかがですか。

○田中委員 これで最後ですか。

○原田委員長 きょうが最後になります。

○田中委員 この後ろの方はもうやらないということですか。

○原田委員長 後ろの方は、かなり細かい内容が具体的な内容が書かれております。

○事務局（酒井円山動物園長） これらを要約したものです。

○原田委員長 概要ということですね。

○田中委員 わかりました。グッズの提案はいいのでしょうか。

○原田委員長 いいですよ。

○田中委員 円山の動物たちをフィギュアにしたいと思っています。例えば、話が出たゾウの花子も、北海道は寒いところなのに、2007年には、三大長寿みたいにキリンのタカヨとゾウの花子とライオンのジェスパがいました。それはもう終わってしまったことで、どんどん忘れられてしまいます。ですから、旭山動物園でもあるのですが、1個300円ですごくリアルなフィギュアになって、その中に、その動物についてのいろいろな説明があるのです。そういうものがあると、新たな人が来たときに、円山のような寒いところでもゾウが60年も生きたのだとか、フィギュアで見る力がすごいと思うのです。

あとは、ホッキョクグマの兄弟が5頭そろったらすごくうれしいと思います。そういうものがあって、ぜひとも商品化して、そこに60周年ということも示して、60周年ということがまだ余り伝わっていないような気がするので、こういうグッズの方で、うちに持って帰ってじっくり眺めるようなものを提案したいと思ひまして、ちょっと意見させてい

いただきました。

○原田委員長 60周年の絵巻物があるといいですね。見ただけでわかりますね。

○田中委員 本当に歴史を感じてほしいです。

○いがらし委員 親子3代で涙を流しながら見るような。

○原田委員長 ほかに、アイデア、提案でも結構でございますが、この基本計画の見直し内容について、いかがでしょうか。

○金澤委員 評価指標の取り方ですが、例えば、1番の環境教育であれば、環境教育プログラムに年間10本とか、先ほど説明がありましたけれども、猛禽類、年間3羽と言いつつ切っています。次のショーウインドーのところでは施策理解度が80%とあります。ずばつと言いつつ切っているのですが、大丈夫なのだろうか。10でなければだめだということなのだですね。9ならだめ、11ならだめ、10でないとだめというふうに理解してしまったのです。こういうとり方をしていたら、例えば、9になったら、もう一つ何とかしなければならぬ、3や2だったら何とかしなければいけないというふうに無理がかかってくる気がするのです。何かうまい表現をした方がいいと思います。確かに、指標として目標値をきちっと定めるのは、100万人もそうだし、30%のマイナスも数値を出しています。しかし、こういう数えやすいものになると、つらいのではないのでしょうか。

例えば、イベントの中でも、夜の動物園は一層増加を検討しますということで、まだ検討だからいいけれども、実は、私の時代も、夜の動物園は結構やったのですが、それによって動物が体調を崩したのです。それで日数を減らしてきたのです。

○事務局（酒井円山動物園長） 連続ですね。

○金澤委員 だから、そこら辺は、すごくきついと思うのです。

○事務局（酒井円山動物園長） そうですね。連続ということは中でも議論しています。評価指標の話ではなくて、その部分だけを言うと、連続というのはかなりきついのではないかということです。

それから、9時までということで、ふやすことと時間のバランスをどうとっていくかということも少し議論したいと思っています。

○金澤委員 そうだとすれば、逆に言うと、開園時間をずらして、夜をずっと延長させるというふうにすると、逆に動物はなれてくるのです。だから、夜型の動物園にしてしまうとかね。

ですから、そういった検討が必要なのだろうと思います。それはそれとして、評価指標のとり方が、ちょっときついような気がします。

○原田委員長 首を絞めるのではないかということですね。

○金澤委員 まともに首を絞めると思います。先ほどの猛禽類の安定供給が本当にされるかどうか、あれは野生だからね。あと、環境プログラムは、新規でやるか、継続でやるかわからないけれども、人がやる話だから、無理やりつくれば10にはなるかもしれませんが。見た感じ、そんな感じがします。

それから、同じ指標の持続可能な経営戦略の中で、年間入園者数の100万人はいいのだけれども、10%削減というと、収支均衡は、もともと100万人の30%マイナスもアバウトなのです。ですから、収支均衡するにはその数字だろうという出し方をしたのだから、30%が10%になったとすると、20%分はどこかで稼がなければならないということですね。先ほど話を聞いていても、アニマルファミリーで2万人、それから、どこかでも稼いで何とか穴埋めをするのかなという感じがしていましたが、それはちょっときついのではないのかということが一つです。

もう一つは、平成17年と比較して10%というと、平成21年、22年でしたか、2年続けて大体10%をクリアしていましたね。

○原田委員長 21年です。

○金澤委員 2年続けて大体10%クリアしているのだから、表現は、削減ではなくて、削減を10%維持しますという表現に変わりますね。

もう一つは、正直に言って、今、古いものを壊して、新しいものを建てて、しかも熱源転換しています。その金額で、数字で単純に比較していいのだろうか。前回も話したように、例えば、重油だったらこうだよ、ガスだったらこうだよという施設ごとの比較をするとかね。一番おもしろいのは、来年になるとわかるけれども、は虫類館はまさに新旧を間近で比較できるわけです。そういうふうに金額でやったら評価ができると思います。そして、重油とガスだったらカロリーがきっと違いますね。分析する手法を変えていかなければならないのではないかと思います。前回も、そうやって分析して評価しなければ、30というのはクリアできないだろうけれども、単純に金額でやったら、こんなに円高けれども、重油は上がっていますという、全然追いつかないですね。そこら辺の工夫が必要ではないかと思います。

それから、10%減というのは、平成17年を対照に10%減であれば、ちょっとまずいのではないかと思います。それなら、基本構想の30%を10%に変えますという手続が先ではないでしょうか。だから、30%を目標に頑張っていきますというのであれば、施設が変わることで評価の時点が変わるのだから、例えば、22年とか23年をスタートとして10というものなら比較のしようもあるけれども、全然条件が違う中で、平成17を基準に10%と言ったら、私は、基本構想に悪影響があるのではないかという感じがするのです。たしか、基本構想は平成17年が基準年ですね。経営戦略のところは、30%と10%をうまくリンクさせて、しかも、H17の基準年を変えなければ、同じ10を使うのでも苦しいのではないかと思います。単純に、H17と比較してしまったら、その間努力していなかったと。外的要因はいっぱいあるのだけれども、単純に言ったら、そこに行ってしまう。そこを見ると、ちょっとつらいのではないかという気がします。

もう一つ、ついでに言わせてください。

第3章の障がい者用トイレという表現です。多目的というような表現の方がいいのではないですか。これだと障がい者だけしか使えないように見えます。表現としては多目とか

何か別な表現ですね。今は一般的には多目的トイレと言いますよね。

○事務局（酒井円山動物園長） そうですね。私も、説明していて、違和感がありました。

○いがらし委員 ちょっと質問ですが、動物園の話題性を確保するため、園内に大規模なシンボルツリーを設置しました。このシンボルツリーというのは生木ですか。それとも、コンクリートか何かでつくるのですか。

○事務局（影山経営管理課長） 生木の予定です。

○いがらし委員 よかった。

○事務局（影山経営管理課長） この辺の植生も考慮して、外来種ではない大きなものを入れようと思っています。

○いがらし委員 そういう何十年後計画のシンボルツリーですね。

○事務局（影山経営管理課長） 大きいものを移植することを考えています。

○いがらし委員 大きくなればいいです。

○山崎委員 きょう言おうと思って用意してきたのですが、私は、札幌に来て3年半たちましたけれども、今は、電車に乗っていても、地下鉄大通の地下を歩いている、円山動物園の告知を目にすることが多くなっていて、本当に頑張っているなどと思っています。

うちは転勤族なものですから、いずれ近いうちにどこかに行くと思うのですが、北海道というのは、本当に道外の人にとってはすごくあこがれの地で、動物もすごくたくさんいます。今、その北海道に四つ動物園がありまして、私はすべて行きましたけれども、北海道全体として動物園を盛り上げてほしいなという思いがあります。

きのうの新聞記事か何かで、じゃらんの提携で、帯広、釧路、旭川、札幌をめぐって、スタンプラリーでポイントをためるみたいなものがありまして、そこに動物園もきっちり入っていました。本当に道外のお客さんをねらうのであれば、北海道全体で動物園をよくしていかなければいけません。旭山に対抗することはもちろん大事ですが、今、認知度が一番高いのは旭山動物園で、その人気をもっと利用して、北海道動物園めぐりツアーというのは余りにも安易なネーミングですが、全体で、動物園に行くなら北海道という形でよくしてほしいと思います。もし道外に行くことになりましても、円山動物園のことをずっと応援しています。札幌のショーウインドウと書いていますけれども、北海道のショーウインドウというつもりで頑張してほしいと思っています。

○原田委員長 ありがとうございます。

時間が20分超過しておりますが、もう少しご意見をいただきたいと思ひます。

○林委員 私は、最後のつもりでなくて、外からも応援させていただきまひます。

厳しいことを言ひまひすと、先ほどからずっと眠たいのです。何で眠たいのだろうと思うと、こうやって項目だけ、柱だけを立てているのですが、本当に人が来るのだろうか、愛せるのだろうかと思ひまひすし、動物の絵が全然見えないのですよ。僕は意識改革と言ひたのですが、ツリーを立てたら人が来る、こうやって施設をやったら人が来る、トイレをきれいにすることは大事なことだけれども、市民と接触する場所をどうひうふうにつくる



のかということに関しては入っていないのです。つまり、1章からの八つは全部がつながっているはずなのですが、これはつながって見えません。さっきから、これは一体何なのだろうと思っていたのです。お客さんが来ればいいということではないのですが、では、円山動物園とは何なのだと感じたときに、僕は、数字をやめましょうというのは好きではなくて、やはり、自分たちは気合いで年間100万人を目指すのだ、それは、どんなことがあっても自分たちを維持していくために大切なのだということを市民にもっともっと伝えなければいけません。

そのためには、こんなこともきちっとやるのだということを示さなければいけないと思います。できることだけをやりますというのは、自分たちの内向きの話であって、基本的には、円山動物園がメッセージを発するのは、自分たちの目標を持っていて、なおかつ、市民とどれだけ接触しようとしているかというメッセージを強く送らなければならないと思うのです。こんなこともやります、こんなこともやりますと。つまり、北海道のイベントとか北海道の施設はみんなそうなのです。構想もそうです。みんな、こういうことをやります、これをやります、これもやりますと言っておきながら、結局、成功したのは旭山動物園でしたという話とか、どこどこでしたという話なのです。しかし、旭山動物園もどんどん減っていつているのです。

そうではなくて、動物園をつなげるということは、市の行政的にいい話だけれども、実際にお互い客を奪われるのではないとか、いろいろなことがあるかもしれません。やはり、最後は、この中身をどうつなげていくかということを経済議論していただいて、いかに市民と接触するか、つまり、簡単に言うと、アプリケーションという言葉がよく使われますが、いわゆる窓口というか、接触する、つなげていくものはどこにあるのか。

動画配信も、それをやれば来ると言っています。委員長に申し訳ないけれども、はっきり言って、動画配信をやっても全然来ないのです。それはなぜかということ、基本的に市民に対してどうやっているのかということ伝える作業をしなければだめなのです。やったら必ず来ますと言っているけれども、実際には来ないのです。NHKだって動画配信をやっているけれども、すごく長い分量をやって、ずっとやり続けて初めて来るのです。それも、大河ドラマとか、お金をかけても来るのです。

PRというのではなくて、市民に、円山動物園はどういうものを目指しているのだということをずっと言い続けるということが、ここに余り書かれていない気がするのです。つまり、シンボルツリーがすごい象徴ですよ、はっきり言ってね。

金澤委員と僕が全然違うのは、だからこそ、目標をきちっと明確にしなければならないはずで、僕は、ここでずっと言っています。内々の体制できるような目標を言われても僕は困るのです。これは市民会議ですからね。市民に向かってどうあるべきかということが話されるために僕は参加していると思うので、最後まで、そのことを明確に打ち出していきたい。

だから、これを発表されるときは、つまり、新聞で言えば、あるいはテレビで言えば、

5年間、円山はこういうことを目指すのだというものがあって、市民はそのことをリポートして言えるような、そんなものをきっちり出していただきたいのです。そのためには、ビオトープとか環境にすごく一生懸命になっていることについて、もっともっと強調してもいいのではないかと思います。つまり、園長の言葉の中に、東日本震災があって、エネルギーの転換が行われていますと。その中で、円山動物園は、いち早くそれに着手してきて、それを充実させなければならぬとすれば、別段、東日本の話をしなくとも、みんな敏感に感じますよ。そういうことを明確に打ち出さなければならぬと、市民は、何か変わるのかなとか、何かできるのかなと、そんなに簡単には思いませんね。

以上です。

○原田委員長 ありがとうございます。

それでは、服部副委員長、いかがですか。

○服部副委員長 私も、今までの各委員等のお話とほとんど類似することになると思います。

まず、第1点としては、この方向性を見直し内容について、頑張るぞという意気込みがしっかりと描かれているというか、描き過ぎているため、今、林委員がおっしゃったように、どうも中身が空洞化しているということです。何を狙っているのかということを見ると、指標の問題にしても、満足度80%でいいのですと。この辺の発想が私もちょっとわからないのですが、普通で言えば、CS度を掲示する場合は、当然、100%に向かって進むわけで、数字をただ羅列しているというレベルではいけないと思います。本当に目指すのであれば、100%を目指し、そのための具体的な行動指針を描くべきであろうと思います。これが第1点です。

そういう意味では、第1章から第3章までの物事を進めていきますと、特に、第3章の問題として、整備計画が次々と打ち出されていきます。これはこれでいいと思うのですが、これに見合ったもので、旧態依然として100万人でいいのかということです。費用対効果を求めていかなければなりません、少なくとも、札幌市民による市民のための市民動物園をつくるということで描いていくのであれば、年間入園者数は100万人でいいのかどうか。そういう意味で、今までは124万人が最高の数値ですが、これを超えるぐらいの目標数値を掲げるべきだろうと思います。まだ100万人に達成していませんけれども、第1章から第3章までの物事の打ち出し方は、当然のごとく、市民による市民のための市民動物園をつくるのだという意気込みがこの中にあらわれていなければならないわけで、年間入園者数100万人で本当に市民動物園と言えるのかということです。均衡のバランスを図るという中で、経常的支出が10%でいいのか。この辺の整合性もとれていないと言えます。先ほど、金澤委員がおっしゃったように、平成17年度の比較としての10%減でいいのかどうか。17年度はもう過去のものであって、100万人という例えで言う

ならば、少なくとも100万人は、21年度でしたか、達成されています。歳入が3億3,000万円と描かれています。経費等が3億8,000万円ですから、こういった状況の中で、直近の中で言えば100万人のときの支出分が出ているわけですから、その辺と比較した支出面のとらえ方をすべきであると思います。何が何でも10%なのか、何か何でも20%なのかということではなくて、均衡といった場面での10%なのかどうか、数字の具体性、裏づけがちょっと見えません。そして、17年度との比較ということになると、なお見えないことになると思うのです。それは、最終的に林委員の意見と重複することになるのですが、動物の個体数が全道一多いわけですし、全国的に見ても個体数の多い動物園であるわけです。そういう意味では、特徴をもっともっと生かした運営、行動をしていくべきであろうと思いますが、円山動物園らしい行動指針、市民に対する訴え方がどうも弱いのです。やはり、市民による市民のための動物園なのです。それであれば、後ろの方に観光の問題が出てきまして、観光との連携による云々と書いてありますが、基本的には、市民のための動物園であって、観光というのは結果ですから、それに求めていくのはナンセンスな考え方です。安易に数字を合わせているのではないか、数字を求めているのではないかと思います。

私は、結果的に、市民の人たちが100万人来るのか、道外者が100万人来るのかということを見ると、やはり、市民動物園なのであれば市民の方々が100万人なり200万人来るという形になるようにすべきだと思います。市民全員に来てくだされば200万人を達成しますが、最終目標は市民一人一人が円山の市民動物園を訪れてくれるという形の打ち出し方ですね。この辺のアピール性です。年間入園者数の100万人というところの姿が見えていないのです。これで市民に本当にアピールしているのだろうかと思います。本当に収支バランスをとって均衡をとっていくのかというふうに見ても、その数字もあやふやです。顧客満足度が80%でいいのだという打ち出し方で、本当に市民に愛される動物園を目指しているのだろうかというところがどうも見えません。100%ではなくて80%でいいのだということになると、とりもなおさず、市民からのクレームの対象になってきます。ましてや、動物園の中の職員も、いやいや、80%でいいのだということであれば、その中に甘えが生じてきます。では、私たちはどこを目指して頑張ればいいのかというと、当然のごとく、ここで打ち出す顧客満足度の目標数値の80%というものが指針になってしまいます。そうすると、職員教育もある意味においておろそかになってしまいます。この数字の裏づけ、数字の求めている姿が、今回これを打ち出していったときに、林委員はメディアの代表として見ておられるだろうと思いますが、書きようがない、書いたら恥ずかしい、こんな位置づけ中にこれをとらえられてしまうのではないかと思います。やはり、私どもの市民動物園会議は、市民のための会議ですから、市民にとって、これはすばらしいと思えるような今後の姿、いわゆるグランドプランなので、そういうイメージがわくような、5年先にはこんな姿が見えるのだ、こんな形になるのなら私たちも足を運ばなければいけないというように、観客行動、いわゆる市民行動を揺り動か

していくような描き方が必要ではないかと思えます。

そういう意味では、これは夜を徹して語り合わなければいけないと思えます。これで終わります、これで申し送りをしますというわけにはいきません。こんな方向性で申し送りをするというのであれば、私どもの市民会議としての責任が問われてしまうのではなからうかと思っております。

まだまだ言いたいところがたくさんありますが、大体こんなところですよ。

○原田委員長 ありがとうございます。

それでは、一応、委員の皆様からいろいろお話がありましたけれども、最後に締めをしておきたいと思えます。

こちらで5年間の軌跡をたどりながら、私なりにちょっと考えてきたことがあります。先ほど、動物園めぐりというお話がありましたが、そうした場合に、旭山は、アクリルの中をアザラシが上に行ったり下に行ったりするような見せ方とか、みんなショックを覚えて、すごいものを見たという体験を思い浮かばせるのではないかと思うのです。

そこで、円山に来たら一体何を思い出すのだろうかということを考えたのです。それぞれの動物園の特徴的なものを一つ思い出すとすれば何なのかといったときに、円山動物園は何なのかということ、先ほどからずっと思っていたのです。私にとっては、やはり、飼育員と子どもたちと動物なのです。例えば、アザラシの魚のやり方はこうなのだと、ちゃんと納得させるようなやり方をしてみせる、それを子どもがまねしてやってみる、そういう触れ合いみたいなものがいろいろな動物を対象にして行われているわけです。そういうところが、すごく親しみやすく、動物との触れ合いを大事にしているのだなという感じがしたのです。

一番最初の印象は、夕方ごろに、雪が降っていたのですが、その中で青白いところにラクダが1頭いたのです。すばらしいなと思えました。12月で、ここに初めて来たときなのですが、ほとんど雪の山の中にラクダなんかいるものではないという姿が突然あらわれて、そういう印象を非常に強く持って、すごいなという衝撃を受けました。そのラクダが、いつの間にかいなくなってしまうと、ちょっと寂しい思いがしたのです。

私は、ずっと押しなべて考えてみると、動物と子どもたちの触れ合い、それなのではないかと私は思っています。だから、わたしの動物園の「わたし」というのは、やはり子どもであると非常に強く思っていて、大人の世界に広げようというのはマーケティングの問題であって、子どもと大人はつながっているわけですから、基本的には子どもをメインにして、子どもがつかまえない動物園はあり得ない、そこでどれだけ特化できるかということを考えるべきだろうと思うのです。

先ほど、林委員から、メディアに動画を載せても意味がないよという話がありました。言い切ってしまうとそういう言い方だと思いますが、私は、動物園こそ、全然情報化されていないところなのだから、もっとやるべきだと思うのです。

サッカーだって、どこの国でやられても、雪が降っている中でそれが見られるというの

は、素晴らしいことであり、だから、サポーターがふえている、あるいはファンがふえているということになっているのだと思うのですね、現実には。だから、会場に行かなければ見られないという世界にとどまっていたら、将来の動物園はあり得ない、私はそのように思います。

つまり、私の好きな動物を私の家で見られる、そういう特権はみんなのものにしていく、そこに大きな動物と人と環境のかかわりが生まれるのです。それを目指さないで何をやっているのだと、私ははっきり言うておきたいです。もう終わりなので言うておきたいのです。何をもちもたしているのだと言いたいのです。

先ほど、やるよとおっしゃられたので、早くやってよと言いたいのです。もう6年間、やるよ、やるよと言われてきたので、やるよと言われても余りにこにこもできない感じです。やるのなら早くやってという感じです。

そういうわけで、生き物を大切にすることというのは、環境を大切にしなければそれは実現できないのだと思います。環境がちゃんとできなければ、人も住めないのだということが環境教育だと私は思っています。

そういう意味では、いつでも動物が気になっていて、それがにこにこ生きていれば、自然環境もまあまあうまくいっているのだらうと思います。そこに人の住む環境が成立しているのだなというところに安心感が生まれます。私は、そういう原理だと思うのです。だから、それを常に身近にということ、常に動物園に行っているわけにもいかないので、常に私のファミリーとしての動物が元気にしている姿が見られる環境を、情報ネットワークを活用して確認ができると。実際のライブは、先ほど言った触れ合いという世界は動物園に行かなければできないので、その子は必ず動物園を見に行くというリピーターになる、私はそのように思います。

それから、観光客は、一たんここで見てファミリーに入ってしまったら、もとの地域に戻っても、円山動物園とともにそこで生きていけると。そういう環境が新しい動物園の姿ではないかと思うのです。だから、動物を飼える人はいいけれども、飼えない人もたくさんいるわけです。動物好きで飼えない人はいっぱいいるわけです。マンションでも制限されているとかね。そういう人たちが、映像の中の自分の動物を大事にしていく、これはほとんどペットではないやり方ですが、飼育員がきちんと責任を持って飼っていただくという形だけでも、そういう関係はあり得るだらうと思います。それは、円山動物園が作り出すべき関係なのではないかと私は思っているわけです。

先ほど、余り意味がないと言われたので、かっかして言っているのですが、一方で、触れ合いということがとっても大事なので、飼育員と子どもの間に動物が立っているわけですから、私は、円山動物園は飼育員のアイデアが最高に生きる環境だよということをトップの方々は肝に銘じていただきたいと思います。飼育員なしで動物園なんか絶対にあり得ないわけで、ここには素晴らしい飼育員がいます。それを、5年間、嫌というほど知らしめられたと私は思っているのです。飼育員が素晴らしい、彼らが円山動物園をつくって

る、それが基本だというふうに思います。そういう意味で、彼らの生々しい意見をここで実現してもらえれば、すごくいい動物園になっていくのではないかと。私は、そのように確信をしておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

アニマルファミリーですが、ファミリーという感覚とアニマルサポーターという感覚は全然違ひます。サポーターは金銭的なサポーターですよでいけますが、ファミリーはそんなことでは成り立ちません。いつも心配している。シロクマがにこっとこっちを見ただけでうれしくなる、それがファミリーという世界ですから、そのネーミングだけは崩さないで、ぜひサポーターではなくファミリーなのだ、その世界を継続していただきたいと思ひます。

○服部副委員長 それに関連して、情報公開という意味で、アニマルファミリーに対して、あるいは、一般の方々に対しても情報公開ということを決えず頭の中に置いておかなければいけないと思ひます。それが、ウェブの活用だろうと思ひます。

その一つとして、QRコードの活用も、いち早く手がけられるコンテンツであるわけですから、動物園だけがQRコードを持っていないということ自体、ウェブに対する対応性が弱い、甘いのかなという感じがします。その根幹は、やはり情報公開だろうと思ひます。そういう精神があるか、ないかということが問われているのではないかとと思ひます。そういう意味では、今、委員長がおっしゃったことのつけ足しになります、その精神をしっかりと持ってやっていただきたいと思ひます。

○原田委員長 最後に、新着動物の出産状況等について、説明をお願いします。

○事務局（酒井円山動物園長） 前回以降の新着動物の主なものをそこに書いてありますので、ごらんいただければと思ひます。

主なところでは、ダイアナモンキーは、3年連続7頭目ということで、これは非常に画期的なことですが、またことしも6月10日に生まれてあります。

それから、アジア館に向けて、マレーグマの雄が上野動物園からブリーディングで参りました。ウメキチと申しまして、上野でも非常に人気のあった個体でございます。これは6月30日です。

それから、テレビ等でも話題になりましたが、キリンのナナコが円山動物園で6年ぶりに出産いたしました。現在でも、非常にかわいい姿でございます。

転出動物に関しては、以下のとおりでございます。

新着動物の出産状況、転出動物の状況については、以上で終わらせていただきたいと思ひます。

最後に、私の方からご連絡がござひます。

委員の皆様、長い間、本当にありがとうございました。

先ほど、服部副委員長から、このままではちょっと引き継げないというご発言もございました。そこで、新しい委員はまだ決まっておりませんが、11月に予定しております次の第14回市民動物園会議を始める前に、できれば、ざっくばらんな感じで、引き継ぎ

の場面を設けたいと思っていますので、きょう言い足りなかったことを含めてお話しただきたいと思っています。そして、きょういただいたご意見は大変参考になりました。それをどこまで反映できるかわかりませんが、ここから数カ月頑張っていこうと思っていますので、次回までその辺を整理してお出しできるように頑張りたいと思います。できれば、次回に再度ご案内いたしますので、意見交換、引き継ぎということでご参加いただければと思います。

原田委員長に関しましては、今後も顧問という形で引き続きご協力をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○原田委員長 ということ、最終回の第13回市民動物園会議を終了し、次回は引き継ぎということでございますので、言い足りなかった点を言っていただいて、それから、新しい基本計画の内容については少し修正した形でご紹介があると思いますので、またそのときにご意見をいただくということによろしいかと思えます。

これまで、市民動物園会議の委員の先生方には、大変熱心にご協力をいただきまして、まことにありがとうございました。

それから、動物園の職員の方々、あるいは飼育員の方々にも、これまでのご努力に対して、本当に尊敬の念を持って、動物にかわって感謝を申し上げたい、そんな気分でございます。

ありがとうございました。

### 3. 閉 会

○原田委員長 それでは、これで市民会議を終了とさせていただきます。

以 上